

東京リ・デザイン

実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2026年06月10日 ～2026年06月20日	日本	シンガポール国立大学	・建築学専攻、建築学科 ・学部3年生、学部4年生、修士1年生、修士2年生	(芝浦工業大学) 学生8名、学生バイト1名、 教員1名 (シンガポール国立大学) 学生11名、教員2名	岡崎 瑠美(建築学科)



図1 講義

本ワークショップは、2026年6月10日から20日にかけて、芝浦工業大学、シンガポール国立大学、東京理科大学、の共同プログラムとして実施された。ワークショップでは、維持管理や改修費用の増加によりその数が減少し続けている東京都内の銭湯を対象に、都市における銭湯の新たな役割について再考した。テーマは、建築的・文化的遺産として重要な価値を有する銭湯をいかに将来へ継承していくかを探ることである。ケーススタディとして、2つの銭湯を対象に現状調査を行い、将来的な活用に向けた建築・都市デザインの提案を作成した。具体的には、銭湯への来訪者を増やすとともに、周辺地域での滞在時間を延ばすことで地域コミュニティとのつながりを強化し、銭湯文化の継承につなげる方策を検討した。さらに、急速に変化する東京の都市環境において、銭湯が経済的・社会的に持続可能な存在であり続けるための戦略を提案することも目的とした。建築および都市デザインの視点から、現代のライフスタイルやニーズに適応しながら、銭湯が今後も地域の重要な文化資産として機能し続ける可能性を探った。



図2 グループ・ディスカッション



図3 中間発表



図4 銭湯



図5 最終日